



発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3 Web <https://www.nposhalom.net> 発行責任者：大竹静子
 TEL 024-529-6901 (ベーシック懇内) FAX 024-529-6902 (ベーシック懇内)

共に生きる仲間たちのコンサート開催報告

第29回
「共に生きる仲間たちのコンサート」
 第15回
「ひまわり感謝祭」

十二月二十日(土)、「共に生きる仲間たちのコンサート」と「ひまわり感謝祭」が、福島市の市民センター大ホールを会場に開催されました。今回で「共に生きる仲間たちのコンサート」は、二十九回を迎えます。毎年、回を重ね二十九年間継続してきたこととなります。この間に東日本大震災・原発事故があり、そこから十四年の月日が流れています。三・一一をきっかけに始まったのが「ひまわりプロジェクト」です。この「ひまわりプロジェクト」に参加されている全国の皆さんを繋ぎ、行われてきたのが「ひまわり感謝祭」です。

シャロームは、障がい者支援のボランティアグループとして始まり、NPO法人となり、震災を機に、シャローム福祉会を立ち上げ、障がい福祉事業所の運営にも直接関わることとなりました。今回のコンサート会場となった市民センターは、現在の市庁舎の建設時、本庁舎完成後に建設される予定だった市民センター・議会棟です。本庁舎の完成後すぐに三・一一の大地震が発生し、震災対応が優先されたことから延期となり、ようやく昨年の四月に完成しました。当時、市庁舎の市民検討委員として関わり、ユニバーサルデザインの視点で検討していたことが思い出されます。市民センターの一階には障がい者団体の運営する喫茶コーナーや販売コーナーも設けられ、ユニバーサルデザインが具体化した社会的弱者への配慮が随所に見られる施設となっています。この建物の中心にコンサート会場となった大ホールがあります。市民のための施設としてみんなで積極的に活用して行きたいと思えます。



今回のイベント全体のタイトルは、「共に生きる仲間たちのコンサート二〇二五」分かち合い、命かがやいて。コンサートを中心とするネーミングとなりました。そこには、シャロームが障がい者支援の活動を始めた当初から目指していた「共生社会」への思いがあります。私たちの生活している地域には、子ども・高齢者・障がいを持つ人たちも一緒に暮らしています。その人たちが、出来ることを協力し合い、分かち合って、命かがやいて生きていける姿を、「共生社会」に重ね、それぞれの音色を出し合えるコンサートを目指してきました。コンサートと同時に開催として、エントランスホールでは、第十五回ひまわり感謝祭、福祉事業所・NPOの展示販売会が行われました。(当日の様子は次ページをご覧ください)人は誰でもが、助け合い、分かち合い、命かがやいて生きていける。「共生社会」を求めていきます。「ひまわりプロジェクト」は、地域内の人間関係を修復し、全国の仲間を繋いでいきます。今年もまた「ひまわりプロジェクト」が始まります。この姿が共生社会を目指すモデル事業として、福島から全国へ、世界へと発信されて行くことを願っています。(T・O)



2026
迎春

二〇二六年、新たな年を迎える。今年も午年、どんな年になっていくのだろうか。干支は馬。馬を考えると競馬ぐらいしか頭に浮かばない。しかし、日本の歴史において馬の果たしてきた役割は大きい。日本の古代史においては、大陸との関係から騎馬民族説が説かれ、馬の動力源や軍馬としての役割も見え隠れする。馬は、馬力があるといわれるほど力があり、戦前までは、人力を補うパートナー的存在であった。決して競わせて遊ぶギャンブルの対象だけではなかった。その馬を大切に、営まれてきた歴史の痕跡は、神社に祭られた多くの馬の姿に見ることが出来る。中国の故事にある「塞翁が馬」という話しを思い出す。人の不幸は予測できないという例えで使われる。一見不幸に見えることも幸運に繋がり、その逆も時として起きる。今年一年間何が起きるか分からない。何事にも安易に喜んだり悲しんだりせず、状況を見定め冷静に判断する姿勢で臨んでいきたいと思う。(T・O)



ひまわりプロジェクト 2025

芋煮会を開催しました

◆現在のひまわり畑、野菜畑
ひまわり畑は、ひまわりの茎やガクは自然に分解され、形が無くなってきました。冬の寒さは虫を抑える効果もあります。この冬は高湿度注意報が出ており、来年の虫が大発生しないともかぎりません。

ひまわりや野菜などの植物は、健康に育つていけば様々な作用（ファイトケミカル）によって虫からの被害が最小限に抑えられます。野菜畑では大根、カブ、人参、白菜、キャベツ、ブロッコリーなどが冬の寒さで凍らないように糖度を上げてゆつくりと生長しています。また、福島市でのほうれん草栽培は、ビニールトンネルが必要になります。

◆土船で芋煮会を開催

令和七年十一月八日、吾妻山の麓、土船にある青葉学園いさごホールにて、おむすび芋煮

を食べながら地域の方々との交流を深めました。

土船地区の皆様、地域内外のボランティアの皆様、青葉学園の関係者様が集って、出し物の芸や歌、千秋会女性部によるフラダンス、大玉村の地域おこし協力隊の山田みきさんによるおむすびの話などを楽しみ、食後は皆さんとの歓談や、青葉学園の子どもたちは、射的でお菓子を狙ったり、お菓子釣りの出し物を楽しみました。

また、ひまわりプロジェクトで収穫したひまわりの種を使用したお菓子「種まきうさぎの贈り物」のお披露目がありました。皆さんに試食していただき、アンケートも実施しました。様々なご意見ご感想をいただきました。ご協力していただいた皆様に感謝申し上げます。

(ひまわりPJ 後藤)



▶ひまわりの種を混ぜ込んだスノーボールクッキー「種まきうさぎの贈り物」

開催報告 共に生きる仲間たちの コンサート & ひまわり感謝祭

をされ、場を和ませていました。千秋会女性部は「島のブルー」 「倅せはここに」の歌に合わせて、息の合ったフラダンスを披露され、穏やかな時が流れました。

宮川華さんは、「君のこころは輝いているかい」「Hopp? Step? ノンストップ」の曲に合わせてのキレッキレのダンスパフォーマンスでした。佐藤安里さんは黒のドレスに身を包み、「キラパタ シャイニング」「永遠の灯」を命を懸けて熱唱しました。大戸彩加さんはピアノ演奏をされました。

「白い恋人たち」「戦場のクリスマス」のメロディーは会場に見えない雪を降らせ、厳かでありながら、力強いメッセージが伝わってきました。

伊藤 & 正木の「マジック & 大



▶仲間たちの詩の朗読言葉一つひとつに気持ちか込められた、心に響く詩の世界を味わいました。

道芸では、正木さんがマジック「剣刺しカード」を披露。観客三名に選んでもらったカードを宙に舞わせ、見事その三枚に剣を突き刺す大成功の演目となりました。大連雲の伊藤さんは、デビルスティックで竹刀や傘を巧みに操る演技を披露。続いて中国発祥のディアボロでは、コマを回して足をくぐらせたり宙に上げたりと多彩な技で会場を楽しませました。

阿部清美さん、金子美智さんの詩の朗読では、代読サポーターの松本さん、河野さんが担当され、たくさん練習された成果が表れていました。

ひまわりアンサンブルの皆さんはヴァイオリン、ピアノ、オーボエ、クラリネットやクラシックの名曲を演奏されました。チャイコフスキーの「く



▶ひまわりプロジェクトの紹介コーナー。SNS 配信も展示までの紹介しました。

るみ割り人形、ジブリの「人生のメリーゴーランド」、「アイルランドのボルカ」と多彩な音色に引き込まれました。

よさこいの桃花さんと川俣太鼓の高野さんによるコラボレーションでは、心揺さぶる太鼓演奏と、よさこい踊りが終盤のステージを盛り上げました。

そしてステージ最後を飾ったのはステージ音響も担当されていた、二本松出身シンガーソングライターの kunajio (くまじろう) さんでした。リハサルが出来なかつたと思いをこぼされながらも、公開リハサルのような感じで、kunajioワールドに包まれていきました。自虐的な歌で笑いと共感に包まれ、kunajio さんの地元愛や世界観が散りばめられた引き語りスタイルでアンコールの後、共に生きる仲間たちのコンサートは閉幕いたしました。

ひまわりプロジェクトの紹介ブースでは全国から寄せられた温かなお手紙の展示などを行いました。岡山や神奈川の栽培協力者様が会場を訪問してくださり、まちなか夢工房のメンバーさんが来場された皆さんにプロジェクトの紹介をして交流しました。

今回も皆さんのご協力により、一つになって創り上げることができたことを感謝申し上げます。お疲れ様でした。

(ひまわりPJ 後藤)

教養講座 地元学を考えた

第二百五十六回「地元学を考える」
(二〇二五年十月六日開催)

「福島復興学を考える」

講師 山川 充夫氏

「福島復興学を考える」のテーマで、福島大学名誉教授の山川充夫先生が東日本大震災、原発事故後に多岐に渡って活動と研究をされてきたことについて講演をお聞きしました。震災から早や十四年となりませんが、今回の講演を聞き、原発事故後の現実を知らないまま過ぎてきたことを、福島県人として愕然とした思いを抱きました。

山川先生のご専門は地域経済学ですが、震災後、災害復興学の研究をすすめるため、現在も浜通りを中心に年に数回は来福されているそうです。山川先生の貴重な研究資料から、帰還困難区域となっていた地域のデータや現在の状況などを知らることができました。

同じ福島県人でも、中通りに住む私は、原発事故の深刻な影響には大きな温度差があり、どこかよそ事のようになっていました。原発訴訟によって、故郷の損失を法的な補償の対象のきつかけとなつたこと、そして、金銭の補償は様々な分断を生じさせ、精神的損害はまだまだ続いていること、さ

らに、このような現実があるにもかかわらず、原発稼働ありきの方向にすすんでいることに現実との矛盾を感じずにはいられません。「福島復興再生基本計画」という言葉は耳にしたことがありませんが、具体的な内容について知る機会がないまま、ニュースの情報などで安易に復興が進んでいると思込んでいたことが、その道のりはまだまだ長いものです。

山川先生のお話の中に「生業(なりわい)」という言葉が多く出てきました。地域経済学を研究する先生だからこそその視点で、災害復興途上の浜通り地域に住む方々の経済生活に寄り添った研究を続け、課題を明らかにされています。

地元の課題を地域の住民で議論する場所をもつこと、継続させることの大切さも改めて考えさせられました。福島の復興はまだまだ続いている課題です。これからも継続的に山川先生のお話を聞きたいと思っていました。(石高 敦子)



第二百五十七回「地元学を考える」
(二〇二五年十一月二十九日開催)

「地底人」

講師 三神 たける 氏

今回も私佐藤が寄稿させていただきました。宜しくお願

いします。今回は冒頭より結論が示されました。「地底人」「宇宙人」というテーマです。過去の講演会でも何度か取り上げられた「UFO」(アンアイデントファイ・フライイング・オブジェクト)は、「UAP」(アンアイデントファイ・アノマラス・フェノメナ)として語られるようになったとのことでした。最近では、「UAP」なる表現もできていて、AとPの間のUは「アンダーシー」のUが入ったものとのことでした。何故アンダーシーかというと、実際のUFOは空中で出現するより圧倒的に海中が多いらしいのです。米海軍の報告の方が多

いからです。UFOはその移動原理から、空中・水中・地中を問わないとのことです。地球上では自然界の基本的四つの力(重力・強い力・弱い力・電磁力)が分かりやすいのが静電気や磁石)があつて、ニュートンの運動三法則(慣性の法則・運動方程式・作用反作用の法則)

により成り立っています。これらの法則に影響を受けない手段で生存し移動している集団がいるとのこと。これこそが、昔し旧約聖書時代に枝分かれし、高度な科学技術を修得し戦争のない理想社会を実現している種族「地底人」なるものとのことでした。

現在の科学で説明できる部分は、物質の基本的四つの状態(固体・液体・気体・プラズマ)のうちのプラズマを自由に駆使してUFOを飛ばしたり、亜空間を創り出し、そこに生存しているということ。プラズマは電磁気力の固まりで高エネルギーを帯びているそうです(身近なところでは

蛍光灯)。物理学では重力が空間を曲げているといわれている、逆に電磁力(プラズマ)で空間を曲げれば質量がなくなるとも重力が発生するそうです。こうして地球の地磁気の中心の核に亜空間を創り出し、小さな地球を形成し活動しているとのこと。太陽はなく、夜もありません。寿命が極端に長いので争い事が起きず戦争もないとのこと。私の頭は混沌のプラズマ状態になりました。いずれにしても我々は戦争のない平和な世界のために頑張りましょう。

最後に前回の「二〇二五年七月津波予言」で語られた漫画家「たつき諒」さんの予言

本「私が見た未来(完全版)」が百万部を突破したようです。同日の前には海外にも噂が知れ渡り、来日外国人観光客が激減しているとのテレビニュースも目にしました。改めて三神先生のすごさに驚いて

石高さんと佐藤さんに感想文を寄稿していただきました。ありがとうございます。

佐藤 浩徳

教養講座 地元学を考えた 第二百五十九回 予告

～精神障がいについて学ぼう～

「地域での暮らしについて」

ピアサポーターリカバリーストーリー (体験談)

(講師)

一般社団法人シャローム福祉会

相談支援センターリアン 所属ピアサポーター 3名

(コーディネーター)

一般社団法人シャローム福祉会 相談支援センターリアン

センター長・主任相談支援専門員 佐藤 仁子

(日時) 2026年2月21日(土) 13:30～14:30

(場所) 福島市市民センター会議室 303号室

(参加費) 無料

*相談支援センターリアン・福島県精神保健福祉会連合会「つばさ会」との共催事業

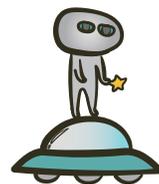
<講演内容>

ピアサポーターによるリカバリーストーリー。

リカバリーストーリーは、精神的な障がいや困難を経験した人々が、自らの回復過程や経験を語ることを指します。「リカバリー」という言葉を聞いたことはありますか?単に「回復」を意味するものではなく、精神障がいのある方が自分らしさを追求する過程を「リカバリー」と呼びます。「自分らしい人生の回復」とも言い換えられます。ピアサポーターのピアとは、英語の Peer (仲間) という言葉が語源になっています。ピアの語源は、等しい・似たという意味をもつラテン語 (par) に由来し、日本語では、仲間、または同輩といった意味を持ちます。ピアサポートが通常の支援と異なる点は、同じ仲間という立場から支援を行う点です。

*2月16日(月)までにお申し込みください。

*257 回地元学は令和 7 年度 みんなの教室「精神障がいについて学ぼう」の 1 コマを共催という形で開催させていただきます。



活動のご報告

2025 年 9 月 26 日～12 月 25 日

- 9 月 26 日 〈ひまわり〉グリーンコープ様来訪
- 9 月 27 日 夢工房〈イベント〉小学生向け UD 体験授業 第二回
- 9 月 28 日 〈ひまわり〉大玉村ひまわりプロジェクトコンサート (大玉村) (シャローム協力)
- 9 月 30 日 楽膳〈講師〉六次化交流セミナー (白河市)
- 10 月 4 日 第 256 回 地元学講座
「福島復興学を考える」
山川 充夫氏
- 10/7・10/28 夢工房〈イベント〉ゆるっとホ〜ム
- 10/10・10/24 リアン ピアカウンセリング
- 10 月 11 日 夢工房〈イベント〉小学生向け UD 体験授業 第三回
〈ひまわり〉グリーンコープ様来訪 (被災地訪問ツアー)
- 10 月 13 日 夢工房〈販売〉パン&バイク祭り (道の駅ふくしま)
- 10 月 18 日 憩〈販売〉いきいき!ふくしまマーケット (道の駅ふくしま)
- 10/18~10/19 夢工房〈販売〉LIVE AZUMA (あづま総合運動公園)
- 10 月 24 日 夢工房〈イベント〉オープン 22 周年 (夢工房店頭)
- 10 月 25 日 リアン〈講座〉みんなの教室 第一回 (市民センター)
- 11 月 1 日 夢工房〈販売〉子ども食堂マルシェ (青少年会館)
- 11 月 3 日 ひまわり・夢工房〈イベント〉市民活動フェスティバル (市民センター)
- 11 月 8 日 〈ひまわり〉収穫感謝芋煮会 (青葉学園)
〈ひまわり〉生活クラブ生協連合会様来訪 (被災地訪問ツアー)
- 11 月 9 日 夢工房〈ひまわり〉生活クラブ生協ふくしま 20 周年記念大会参加 (喜多方市)
- 11/13・11/27 憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
夢工房〈イベント〉ゆるっとホ〜ム
- 11/14・11/28 リアン ピアカウンセリング
- 11 月 15 日 夢工房〈販売〉ふくしまはあとネット共生展 (福島駅東口広場)
- 11 月 22 日 〈ひまわり〉生活クラブ神奈川様主催復興まつり参加 (神奈川県)
〈ひまわり〉大玉ボランティアフェスティバル参加 (大玉村)
リアン〈講座〉みんなの教室 第二回 (市民センター)
- 11 月 24 日 夢工房〈販売〉本博 (曾根田駅)
- 11 月 29 日 第 257 回 地元学講座
「地底人」
三神 たける氏

- 12 月 9 日 憩〈ひまわり〉島根県立盲学校様 Zoom 交流
- 12/11・12/25 憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
- 12 月 12 日 夢工房〈イベント〉ゆるっとホ〜ム
- 12/12・12/26 リアン ピアカウンセリング
- 12 月 13 日 リアン〈講座〉みんなの教室 第三回 (市民センター)
- 12 月 14 日 夢工房〈販売〉クリスマスマーケット (納屋カフェ椿)
- 12 月 20 日 〈イベント〉共に生きる仲間たちのコンサート&ひまわり感謝祭 2025 (市民センター)
- 12 月 21 日 憩〈販売〉ガヤガヤフェス

活動予定

2025 年 12 月 26 日～2026 年 1 月 25 日

- 1 月 8 日 〈ひまわり〉生活クラブ生協連合会様復興支援学習会 (Zoom)
- 1/9・1/23 リアン ピアカウンセリング
- 1 月 10 日 リアン〈講座〉みんなの教室 第四回 (市民センター)
- 1 月 15 日 憩〈販売〉共生社会ふくしま主催手作り市
- 1 月 17 日 第 258 回地元学講座
「キリスト教信仰とソーラーシェアリング事業」
近藤 恵氏
夢工房〈販売〉ヤクルト新年大会 (ウエディングエルティ)



ひまわりプロジェクトの情報はここから

ひまわりPJウェブサイト



ひまわり通信



Instagram



ひまわりの育て方はここから 栽培の豆知識など更新中! 最新情報はここから!

編集後記

2026 年が始まりました。皆様にとって良い一年となりますように。初日の出を見に南相馬の海岸に行ってきました。気温は氷点下。待っている時間は長く感じるもので寒さで耳も鼻も痛い。やっと太陽が出てきた途端、陽差しをあたたかさで心身がほっとしました。太陽のエネルギーってすごい。昔の人たちが太陽を神様だと思った気持ちも分かる気がしました。(A・O)